



聖書に出てくる植物「アロハ」

切り絵 中谷隆志

チャペル・アワー案内

2022年6月1日

No.256

同志社大学

キリスト教文化センター

京田辺
0774-65-7370
今出川
075-251-3320

HP
<https://www.christian-center.jp/>



○聖書を学ぶ会 (センター教員・越川弘英)

この会では聖書の中の比較的よく知られているトピックを選んで学んでいます。本年度・春学期は旧約聖書から「カインとアベルの話」「ノア方舟」「バベルの塔」の物語などを取り上げる予定です。輪読やディスカッションを通して、聖書のいろいろな解釈の可能性に迫ります。初めて聖書を手にとる方も含め、どなたでもお出でください。皆さんの参加をお待ちしています。
(1カ月に1回程度 クラーク記念館ラウンジ)

○聖書研究会 (センター教員・森田喜基)

聖書には私たちの人生を輝かせる言葉や、深いメッセージがいっぱい詰まっています。そんな言葉との出会いを、同志社に学ぶ間にしてみませんか。「研究会」とは言いつつ、大部分は参加者の皆さんと一緒に聖書を読んで感じたことを、分かち合うことに重点を置いたプログラムです。互いの想いを聴きながら、楽しく学ぶことができます。対面で聖書の言葉に触れてみたい方がおられましたら、気軽にお立ちよりください。
(毎月第4火曜日 10時45分～11時45分
同志社京田辺会堂光館(HIKARI-KAN) チャプレン室)

○聖書を味わおう (チャプレン・仲程愛美)

聖書はこれまで時を超え、場所を超えて読み継がれてきました。さまざまな出来事が記されているこの書物を手に人々は語り合いました。一人でじっくり読むのも良いですが、誰かと感じたことや思ったことを分かち合いながら読むのもまた魅力的です。聖書やキリスト教に興味や関心がある方、初めて聖書を手にする方も、一緒に聖書の「ことば」を味わってみませんか。
(毎週金曜日 13時15分～14時
クラーク記念館ラウンジ)

○スタートアップ:聖書の扉 (チャプレン・川江亜希子)

「聖書」は、中を開くと難しいことや信じられない話まで書いてあります。でもそれを丸ごと信じなくなっていくのはいいのです。その時、どんな場所で、どんな人たちと一緒に読むかで、記された言葉に対する味わい方が違います。人間とは何かを考える、知るきっかけの一つとして、この講座の扉を開けてみてください。毎回、1冊の絵本と共に、「聖書」を開く講座にいたします。どなたでも大歓迎!
(毎週金曜日 13時15分～14時
同志社京田辺会堂光館(HIKARI-KAN) チャプレン室)

お知らせ

○Doshisha Spirit Week 2022 春

6月6日(月)～6月11日(土)
同志社大学の歴史や建学の精神、新島襄についての講演、キャンパスめぐり隊など、さまざまな企画を行います。創立の志に触れる1週間です。それぞれの会場を含め詳細につきましては、ホームページ・掲示板をご確認ください。

<講演>
※京田辺キャンパスでの対面講演となります。

6月7日(火) 14:55～
「新島襄とお札になった学校創業者」
神学部教授 石川 立

6月9日(木) 14:55～
「新島の残したもの～同志社に関わる歌をめぐって」
同志社小学校宗教科教諭 中川 好幸

<キャンパスめぐり隊>
解説つきで、今出川校地キャンパス内をめぐり歩きます。
6月10日(金) 13:30～

「絵図からみる今出川キャンパス」
案内人 同志社社史資料センター
社史資料調査員 富田 知恵子

○メディテーション・アワー

オルガニストによるオルガン演奏を聴きながら心静かなひとときをお過ごしください。

今出川校地 7月28日(木) までの月～木 12:40～13:00
会場:同志社礼拝堂

京田辺校地 7月28日(木) までの月・木 12:40～13:00
会場:同志社京田辺会堂言館(KOTOBA-KAN) 礼拝堂

○チャプレンとの面談

学生の人生における悩みや不安などの相談に応じています(教会のみならず、学校、病院などで働きを担う牧師をチャプレンと呼びます)。

今出川校地・京田辺校地
随時受付:越川 弘英、森田 喜基

今出川校地
金曜日 14:00～15:00 仲程 愛美

京田辺校地
金曜日 14:00～15:00 川江 亜希子

春学期チャペル・アワー統一テーマ

「イエスはすぐ彼らに話しかけられた。」

『安心しなさい。わたした。恐れることはない。』

(マタイによる福音書14章27節より)

転んで泣き出しそうな子をしっかりと抱き抱え「大丈夫、大丈夫」と声をかける大人の姿が目に残りました。膝がうつすらと赤くなっている、痛みと戸惑いで大粒の涙が止まらない子ども。「痛かったね。びっくりしたね。じゃあ『いたい』の『いたい』、飛んでけ!」ようにか」と優しく話しかける大人のその横顔は愛おしさで溢れていました。膝に手を当てながらその魔法のコトバを言い終わると、あつという間に泣き声は止み、その子はまたすぐに歩き出してしまいました。もちろん、怪我が治ったわけでも、転んだ事実を忘れた訳でもありません。けれどもこの子にとって、自分のことをいつも見守っていてくれる存在がすぐに来て抱きしめてくれ、「大丈夫」と声をかけてくれ、痛みを共感してくれただけで、この体験を乗り越えるには十分だったのだと思います。

不安や迷いを抱える時、誰かに「大丈夫」と言ってもらえるだけで、心が軽くなります。勇気が湧いてきます。その一言で問題が解決する訳はありませんが、この一言に助けられます。私たちもイエスの「大丈夫!」に耳を傾けてみませんか。

(キリスト教文化センターチャプレン)

日本キリスト教団石橋教会牧師 仲程 愛美

チャペル・アワー

年間実施予定

春学期：7月27日（水）まで
秋学期：9月27日（火）～2023年1月25日（水）

- ◎チャペル・アワーは礼拝堂で行うとともに、両校地週1回は録画によるオンライン配信をする予定です。当日の奨励題や配信のスケジュールなど詳細につきましては、ホームページや学内掲示板をご覧ください。
- ◎情報保障が必要な方は、2週間前までにチャペル・アワーを実施する校地の事務室までお知らせください。
- ◎チャペル・アワーに参加の方は、マスクを着用し、間隔を空けて着席してください。
- ◎感染症対応のため、ご退出の際は、入口で配布する参加者カードをご提出ください。

スケジュール（春学期後半）

京田辺校地

月/日	奨励者
7/22	キリスト教文化センター准教授 越川 弘英
7/15	日本キリスト教団浪花教会副牧師 川江 亜希子
7/8	日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師 吉岡 恵生
7/1	日本キリスト教団阿倍野教会牧師 山下 壮起
6/24	日本キリスト教団河内天美教会牧師 今井 このみ
6/17	日本キリスト教団浪花教会副牧師 川江 亜希子
6/10	キリスト教文化センター教授 越川 弘英
6/3	日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師 吉岡 恵生

月/日	奨励者
7/27	キリスト教文化センター准教授 森田 喜基
7/20	文化情報学部生 阪本 龍海
7/13	音楽礼拝 シンガー・ソングライター 福原 タカヨシ
7/6	日本キリスト教団賀茂教会牧師 藤浪 敦子
6/29	花園近鉄ライナーズアンバサダー タウファ 統悦
6/22	日本キリスト教団世光教会牧師 新井 純
6/15	日本キリスト教団教師（京都教区巡回教師） 堀江 有里
6/8	宣教落語家 Doshisha Spirit Week 2022 春 小笠原 浩一

月/日	奨励者
7/22	キリスト教文化センター教授 越川 弘英
7/15	日本キリスト教団浪花教会副牧師 川江 亜希子
7/8	日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師 吉岡 恵生
7/1	日本キリスト教団阿倍野教会牧師 山下 壮起
6/24	日本キリスト教団河内天美教会牧師 今井 このみ
6/17	日本キリスト教団浪花教会副牧師 川江 亜希子
6/10	キリスト教文化センター教授 越川 弘英
6/3	日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師 吉岡 恵生

今出川校地

月/日	奨励者
7/22	日本キリスト教団同志社教会牧師 菅根 信彦
7/15	神学部教授 三宅 威仁
7/8	日本キリスト教団石橋教会牧師 仲程 愛美
7/1	日本キリスト教団北千里教会牧師 宮岡 真紀子
6/24	日本キリスト教団教師（京都教区巡回教師） 堀江 有里
6/17	日本キリスト教団同志社教会牧師 菅根 信彦
6/10	神学部教授 三宅 威仁
6/3	日本キリスト教団石橋教会牧師 仲程 愛美

月/日	奨励者
7/27	日本キリスト教団高の原教会牧師 竹ヶ原 政輝
7/20	日本キリスト教団河内長野みぎわ教会牧師 福島 義也
7/13	神学部教授 関谷 直人
7/6	日本キリスト教団希望ヶ丘教会牧師 遠藤 勇司
6/29	日本キリスト教団京都教会副牧師 入 順子
6/22	キリスト教文化センター教授 越川 弘英
6/15	日本キリスト教団桂教会牧師 熊谷 沙蘭
6/8	社会学部教授 Doshisha Spirit Week 2022 春 木原 活信

月/日	奨励者
7/22	キリスト教文化センター教授 越川 弘英
7/15	日本キリスト教団浪花教会副牧師 川江 亜希子
7/8	日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師 吉岡 恵生
7/1	日本キリスト教団阿倍野教会牧師 山下 壮起
6/24	日本キリスト教団河内天美教会牧師 今井 このみ
6/17	日本キリスト教団浪花教会副牧師 川江 亜希子
6/10	キリスト教文化センター教授 越川 弘英
6/3	日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師 吉岡 恵生



エッセイ

『人間の尊厳の時代』

峯 陽一

ここ数年、研究のためのフィールドワークができなくなった。そこで私は発想を切り替えて、若い友人と一緒に哲学書を翻訳することにした。ハーバード大学の政治哲学者マイケル・ローゼン氏の『尊厳—その歴史と意味』である。岩波新書の一冊として昨年刊行することができた。

ローゼン氏によると、尊厳 (dignity) という言葉には、複数の意味がある。それらはDNAのらせん構造のように、互いに絡み合いながら、尊厳の意味の束を構成している。

第一の意味は、「地位」の尊厳である。かつては、貴族、聖職者、地方の名士など、誉れある人々が、その身分によって尊厳をもつとされた。日本では、皇室の尊厳などと言われることもある。

第二の意味は、「本質」の尊厳である。世界人権宣言にあるように、人間としてこの世に生まれたすべての者は、人間であるという事実によって、一人ひとりが侵しがたい尊厳を有すると考えられるようになった。気高い地位がすべての人間に拡大し、普遍化されたのである。意味の転換の契機となったのは、西洋ではフランス革命だった。

第三の意味は、「振る舞い」の尊厳である。苦しみに耐え、悲しさをごらえながら、人間性を守ろうとする人の姿は、英雄的な尊厳に満ちている。人は、死に直面しながらも、人間らしく生きようとすることができる。

どれかが正しく、どれかが間違っているというわけではない。これらの意味は、交互に前面に出たり、相手を引き立てたり、互いに挑戦したりしながら、全体として「尊く、厳かで、侵しがたい」という尊厳の意味の内実を構成している。「一人一人ハ大切ナリ」という新島襄の言葉は、私たちが生きる時代の尊厳の内実を一言で表現したものである。私たちは震災に直面し、コロナ禍を経験し、ウクライナ戦争を目撃した。一人ひとりの人間の命の壊れやすさと大切さ、そして未来の破局の可能性を実感させられる時代になった。

私たちは、遺体や胎児など、定義上は人間でない存在にも尊厳があると感じ、それらに敬意をもって接する。ローゼン氏は、尊厳の要諦は人と人の関係のなかにあるのではないかと問いかける。死者が私たちの心のなかで生きている限り、そこには「敬意としての尊厳」が成立するのだろう。

私たちが自己と他者の存在に敬意を表するのは、それが快樂をもたらすからではなく、絶対的な義務だからである。尊厳の概念は、世俗的な世界において、限りなく「祈り」に近いものだと考えられるかもしれない。

(みね・よういち||グローバル・スタディーズ研究科教授)